

西中われら



学校の教育目標：自ら学ぶ 共に生きる 努力一輪 4本柱：授業、挨拶、掃除、合唱

育てたように子は育つ

校長 細井 孝治

「育てたように子は育つ」、相田みつをさんの言葉です。

子どもは思ったようには育たないですが、育てたように育つものだと、4人の子育てを終えた、今になってつくづく思います。(反省ばかりです…)

親として子どもに一番伝えたいことは何か。きっと、我が子に一番多く口にしてはいるはずなのですが…、実際一番多いのは、早くしなさい、急ぎなさいなどの「ああしなさい、こうしなさい」であり、できなかつたり失敗したりすると「だから言ったでしょう」となってしまうがちです。

幼い頃から「ああしなさい、こうしなさい」「何々してはいけません」と育てていると、受け身の姿勢が身に付き、指示がないと動けない人間になってしまいます。また、子どもはトラブルを自分で解決してこそ、生きる力を身に付けていきますが、子どもがかわいそうだと、親がすべてを解決してしまうとその力が身に付いていきません。その結果、辛いことや苦しいことから逃げてしまう子になってしまいます。さらには、今、街に出ると、着るもの、食べるものなど、お店には商品があふれています。あり余るほどの豊かさ、特別な贅沢をいわなければ、欲しいと思うものは、ほとんど手に入るようになりました。おのずと、子どもたちの欲求も「好きなことを、好きな時に、好きなだけ」というように際限なく膨らんでいきます。このような、「子どもの求めに応えることが、愛情の示し方である」という錯覚に陥っている親が多くいることも事実です。大人たちによる錯覚の愛情によって、徐々にむしばまれてきたものがあります。それは、我慢する心であり、物を大切に作る心であり、感謝する心です。

琉球大学の平田幹夫先生から、以前、「子どもの心にどんな色の花を咲かせるかは、どのような『体験』の種子をまくかできまる」というお話をいただきました。最後にそれを紹介します。

- 1 優しくされた体験を多くもつ子どもは、人にやさしくすることができる。
- 2 誉められた体験を多くもつ子どもは、人を誉めることができる。
- 3 涙を流した体験を多くもつ子どもは、涙に込められた人の気持ちを受け止めることができる。
- 4 怒りの感情を多く体験した子どもは、人に怒りをぶつけることが多くなる。
- 5 謝り、許されたことを多く体験した子どもは、人を許すことができる。
- 6 笑いを多く体験した子どもは、人に笑顔で語りかけることができる。
- 7 注意されることばかりを多く体験した子どもは、人に攻撃的に注意することが多くなる。
- 8 殴られて注意されることを多く体験した子どもは、人を殴って注意することが多くなる。
- 9 できることを多く体験した子どもは、何事に対しても挑戦しようとする。
- 10 できないことを多く体験した子どもは、できることでも挑戦しようとしなない。
- 11 大切なものを多くもっている子どもは、人が大切にしているものに気を遣うことができる。
- 12 親に愛されていると感じることを多く体験した子どもは、自分の家族を愛することができる。

生徒たちの笑顔、自立した将来に向けて、西中学校も「よき体験」をきちんとつまらせていける場であり続けられるよう教職員が一丸となって取り組んでいきます。また、家庭・地域とも連携・協力を図りながら取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。